



平成20年度 上志津原町会長
池田三知子氏選出について



時代に即した
町会長選挙
の具直し

私たち、上志津原地域の急激な地域開発や世帯数、人口の急増する中、地域コミュニティの中核をなす町会長の役割が増す中、町会のリーダーである町会長の役割が多様化、重要性が増大し、大きな期待が寄せられています。

こうした中、平成19年度町会では次期町会長の選出に当って新たな試みとして町会各組織の代表者等から構成される「次期町会長候補者推薦委員会」を設立し候補者の推薦を諮問するとともに、推薦に当って中期的町会運営を視野に、複数年度町会運営を付託できることを要

件とするなど改革に取り組みました。

上志津原地域を取り巻く状況

平成17年を契機に、私達が居住する上志津原地域において宅地造成が急激に増加し、地域を取り巻く環境や地域コミュニティが大きく変貌しています。

取り分け、町会を形成する班の新設や分割再編などこれまで大きな変化の無かった「上志津原」に、地域開発の大波が押し寄せてきました。

このことは、単に班や町会員数の増加に止まらず、世代構成や住環境等多面的な変化と、戸建に加えて集合住宅の新設による班の構成単位の見直し等も発生してきました。地域開発は、年度を跨ることもあり建設計画から、住民説明、工事、入居に至る各プロセスにおいて、町会としてこれまで未経験な種々の対応も発生しています。具体的には、賃貸住宅入居者に対する町会加入の説明や、町会運営に関する費用負担(町会費)の仕組み作り等です。

これまで、世帯数や班等普遍的であった町会の構成が、ここ1、2年で100世帯規模で急増し、班の数も新設、分割により5班も増加しています。こうした変化は、顕在化している宅地造成や住宅建設を見据えても当然継続する事は必定です。

市民協働時代における町会の役割拡大

佐倉市では、まちづくりに対する市民の

関心を高め、地域の特性や市民の意識を踏まえた行政運営を推進するとともに、市と市民が共につくるまちづくりを推進すべく、平成18年9月29日佐倉市市民協働の推進に関する条例を制定しました。これは、市民、自治会、町内会、市などの様々な主体が、公共の利益に資する同一の目的をもって取り組むまちづくり活動に対し、対等の立場で連携の上、協力し、及び協議して取り組むことを規程したもので、地域コミュニティの形成、運営にあたって町会がこれまで以上に大きな役割を担うこととなります。

町会運営とリーダーとして

町会長の役割と期待

上志津原を取り巻く、急激な地域開発や市民協働時代における町会が担う役割等を考えると、これまでのように、年度毎に入れ替わる現行の町会長や役員体制では負担が大きく、継続的な課題解決や行政等との連携が困難なことは容易に想像できます。

平成19年度町会班長会議の英断

(次期町会長候補推薦の諮問)

平成19年度町会では、班長会議で次期町会長の選考にあたり、自治会館運営委員会、原まちづくり委員会、グラウンド運営委員会、双葉会、子ども会、民生委員、平成18年度町会役員、平成19年度町会役員等

を以って構成する「次期町会長候補推薦委員会」を設置し選考を諮問しました。なお、候補者選考にあたって「年間町会長を継続できること」を附帯要件としました。

上志津原町会規約第7条には、役員選出について町会長については、班長会議の決議によることとし、副町会長等他の役員は班長会議の互選によることと定めています。

これは、町

会長については、班長以外からの選出を可能としたもので、事実、平成9年度町会では前年度役員(会計)経験者の萩庭一彦氏(現自治会館運営委員長)が町会長に選出されています。当時、進行中の自治会館建設計画から着手、竣工までの一貫した対応を図るため平成8年度町会の総意を反映したものでした。

こうした、中期的町会運営の礎が僅か一期で途絶し、以来10年間旧来の年度代わりの役員体制に戻ってしまった事は痛恨の極みです。



第1回 候補者選考委員会会議(9/29)

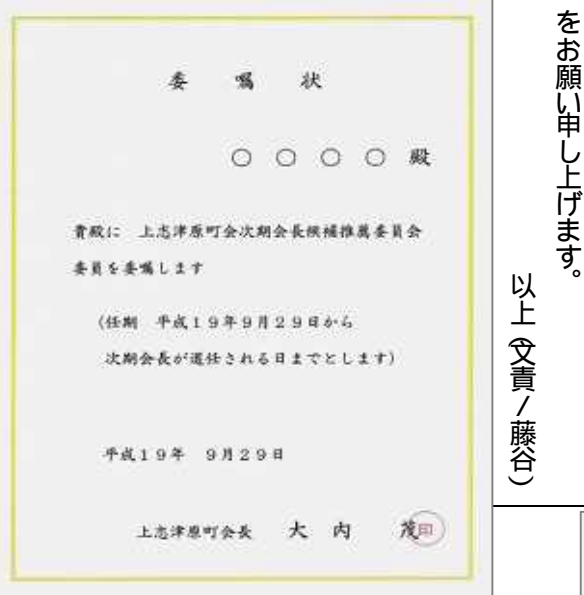


平成20年度班長予定者に対する説明会(10/28)

班長会議において推薦委員会の答申案が付議され、臨時さる、10月21日開催された、臨時班長会議において推薦委員会の答申案が付議され、臨時さる、10月21日開催された、臨時班長会議において推薦委員会の答申案が付議され、臨時

全町会的視野に立った候補者の選考、答申 平成19年度町会の英断を受け、町会各組織代表者等から構成された次期町会長候補者選考委員会では、精力的に3回に及び委員会での論議を踏まえ、次期町会長候補に委員会の総意で池田三知子さんを推薦するとともに、推薦委員会を構成する町会各組織の代表者が次期町会(長)への全面的支援を確認しました。

班長会議での答申可決及び平成20年度班長就任予定者への説明と同意



が説明され、18名参加した次期班長就任予定者の大多数の賛同を頂き、平成20年度町会事業計画や収支予算案作りが池田次期町会長のリーダーシップにより進められる事となりました。 「上志津原たより」号外 ホームページによる次期町会長選考経過の情報開示 前記のとおり、次期町会長選出を受け平成20年開催の総会において付議報告の上正式就任すること成りますが、町会では次期町会長選考経過について情報開示し、町会各位のご理解を頂くべく上志津原たより「号外」の発行及び町会ホームページへの掲載を行うこととしました。 町会会員の皆様には、何卒ご理解を頂き、今後益々町会運営へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。 (以上受責/藤谷)

これまでの経過(時系列)

長年懸案とされながら先送りが続いた町会長の選出方法、H19年度町会の英断をもって一区切り付きましたが、これまでの経過を箇条書きで整理しておきます。 19年度町会が「次期町会長候補者推薦委員会」を設立(上は委員の委嘱状)。且つ、同委員会に次期町会長候補者の選考を諮問。同委員会は第2回選考会議において、無記名投票及び審議の結果、池田三知子氏を推薦する事に決定。19年度町会にその旨答申。10月度班長会議で答申案審議、答申者を町会長に擁立する事を承認。10/13、同委員会の第3回会議において、推薦委員全員の捺印をした推薦状作成。(右) 数日後、推薦状を携え池田邸を訪問、就任受諾を要請。...後日、受諾の回答あり。 これを受けて10/21に臨時班長会議を開催、池田氏を次期町会長とする決議に至る。10/28、H20年度班長予定者対象の集会開催。次期町会長が既に選考がされている事、及びその経緯を説明し同意を得る。(M)

推薦状のコピー 平成19年10月14日 池田 三知子 様 上志津原町会 次期町会長候補者推薦委員会 委員長 大内 茂 次期町会長就任のお願い! 謹啓 貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は上志津原町会へ一方ならぬ高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて標記の件、いきなり唐突なお願いで恐縮しております。お詫びと共に、ここに至った経緯をご説明させていただきますので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。 当町会は毎年交替する班長さんの頑張りで、和気満々の町会運営が行われています。但し、現在行われている町会長の「選出方法と任期」については問題が多く、「要改革」が叫ばれているものの毎年先送りされてきている事はご承知の通りです。 そうした事が19年度班長会議の議題になり、その結果「町会長候補選考の諮問機関の設置」が決議されました。これを受けて結成されたのが「次期町会長候補者推薦委員会」であり、その委員会が次期町会長候補を選考し、班長会議に答申する事になったのです。 そして同委員会はこの程、池田三知子様を次期町会長候補に推薦することを皆様一致で決し、標記のお願いに至った訳でございます。(お願ひの性格上、突然訪問させて頂く事をご容赦下さい) 下記に若干の参考要件を書き添えておきました。趣旨をご理解・ご高察のうえ、何卒ご受諾頂きますようお願い申し上げます。 謹白 記 1. 町会長の職務...当町会を代表し会務を総括する。(班長の職務は兼務しない) 2. 町会長の任期...2年(暫定)とし、任期満了時推薦委員会に再度推薦された場合において再選を妨げない。 3. 就任への段階...推薦委員会で選考⇒ご本人への要請⇒受諾確認⇒班長会議に答申⇒班長会議で決議⇒総会で承認⇒町会長就任 というステップになります。 4. バックアップ...当委員会は、上志津原の民生委員や、町会関連の全団体の長および長が推挙する若干名で構成されており、その一覧は下記の通りです。そして私共委員一同は、受諾された場合において全面的にバックアップしていく事を決意しております。 以上、宜しくお願ひ申し上げます ▼上志津原地区民生委員: ○富武孝吉 ○糸井文字 ▼千供会: ○泉 友寿 ▼平成18年度町会役員: ○佐藤八重 ○濱道ゆかり ○益子 明 ▼自治会館運営委員会: ○萩原一樹 ○藤谷良規 ○我妻さよ子 ○宮坂妙美 ▼原まちづくり委員会: ○中山聖彦 ○友利茂人 ○松田 肇 ▼グランド運営委員会: ○大久保峯夫 ▼双葉会: ○田上正敏 ▼平成19年度町会役員: ○大内 茂 ○八嶋純子 ○須藤 滋